



たまき 社協だより

2022.11 No.84

編集・発行 社会福祉法人 玉城町社会福祉協議会
〒519-0433 玉城町勝田4876番地1
TEL 0596-58-6915 / FAX 0596-58-6916
ホームページ <http://tamasya.or.jp/>
E-mail tamasya@amigo2.ne.jp

玉城町社協理念 ～ 笑顔広がる 人づくり 地域づくり つながりづくりの実現に向けて ～



講演会

元気ですたまき 「活動復活」セミナー



事例発表

セミナーには、委員会のアドバイザーを務めるユマニテク短期大学 田村禎章准教授に登壇いただき、「ボランティア! いきいき楽しい活動のコツ」と題して講演いただきました。

この日参加した54名は、思い思いに活動への悩みや課題をお持ちの方ばかりで、活動の再開に向け意気込んで話を傾けました。

また、講演の前には町防災ボランティア、特定非営利活動法人わんず、ケアハイツ玉城の事業活動なども報告され、新しい地域力・福祉力の発見の機会になったものと思います。

元気ですたまきまつりは、住民に広く福祉の啓発や地域活動を紹介する機会として欠かせないものです。今後コロナと共存しながらできる形で「復活」できるように地域の皆さんとともに挑戦していきます。

新型コロナウイルスの感染拡大により様々な事業が中止や延期を余儀なくされ、福祉の祭典「元気ですたまきまつり」も2年連続開催できていません。

このような中で、コロナと共存し新しい形で地域福祉を推進していくためにはどのようなようにすべきか、みんなが今一度立ち止まり考える機会にしようと7月31日、「元気ですたまき」「活動復活」セミナーを元気ですたまき委員会及び同まつり実行委員会の主催で開催しました。

夏休み 楽しい思い出いっぱいつくろう

多世代交流 むかしの遊び体験

町内の小学生を対象に、夏休みの期間中に4回にわたり「むかしの遊び体験」を保健福祉会館で開催しました。

この体験会は、町民から多世代交流を行いたいとの声を受け、町社会福祉協議会とたまきつながるプロジェクトと共催で行ったもので、夏休み期間中の子ども居場所づくりとボランティア活動の創出を行うことが目的です。

毎回、10人あまりの子どもたちが、町内の高齢者からむかしの遊びを学ぶもので、竹とんぼ、折り



竹とんぼ作り体験

紙、けん玉作りを教わりながら交流を深めました。

竹とんぼ作りでは、へら状に準備された竹へらをやかんから吹き出す蒸気を使い曲げていきプロペラを作成し、ふれあいホールで飛ばし比べをしたり、手ほどきを受けながら紙を折ったりして、はじめて作り方を教わる子どもたちには楽しい交流会となりました。

また、このほか防災も兼ねポリ袋での炊飯体験も行い、楽しい夏休みの思い出作りとなりました。



折り紙体験

玉城中2年生を対象に 防災講座

自然災害発生時に落ち着いて行動できるか、防災・減災の基本的な知識を習得するため9月9日、玉城中学校2年生を対象に防災講座を開きました。

町社会福祉協議会と防災ボランティアでは、小学4年・6年生を対象に防災講座を行っています。今年度からは中学生まで対象を広げ準備を進めてきました。

講座では、2年生145名を対象に町の防災アドバイザーで三重大学大学院工学研究科 川口 淳准教授からお話しいただいたあと、7人ずつのグループに分かれ、災害対応カードゲーム「クロスロード」を体験しました。

このカードには、飼犬を連れ



三重大学 川口准教授

て避難所に来た人を受け入れるかや、避難所に3,000人居ます、2,000食しかない食料をあなたは配りますかなどに対して「Yes」か「No」で答え、その答えをグループのみんなで真剣に議論し共有し合うというものです。これまで小学生で経験してきた参加型の訓練から、自ら考えて行動できる知識を習得する講座へとレベルもあがり、これからの町の防災・減災の一助となることを期待しています。



防災講座の様子

伊勢のキャンドルナイトで 元気なたまきをPR

伊勢市宇治山田駅前の明倫地区まちづくり協議会などが主催する「キャンドルナイト」を見て聞いて過ごす「夏の一夜イベント」が8月6日、シンフォニアテクトロジールホールで開かれ、大ホールで行われたライブイベントに「たまき人バンド」が出演し、元



たまき人バンド 元気なたまき体操

気なたまきを披露してきました。

たまき人バンドは、元気なたまき委員会のメンバーで作る総勢16名。この日は、イベントのトリを任せられ「元気なたまき体操」を皮切りに、「365日の紙飛行機」「ふたりの愛ランド」などを演奏し、会場に詰め掛けた伊勢市内の人たちに、元気な魅力あるまちのイメージを演奏を通じて一杯伝え、会場は大いに盛り上がっていました。

玉中教職員を対象に ゲーム形式で避難所運営学ぶ

災害が起こった場合、町内各小学校の体育館が避難所になります。そのため、各学校の教職員にも避難所などのような人が来るのか、避難所ではどのようなことが重要かなどを考えていく必要があります。8月19日、玉城中学校の教職員を対象に避難所運営ゲーム（HUG）を行いました。

玉城中学校は、避難所の指定はされていませんが、町内の各避難所での対応ができなくなってしまうときに開放される可能性もあります。避難所運営ゲームで職員のみなさんからは、「学校施設



避難所運営ゲーム

内の特徴を事前に把握する必要があります。「教員や職員のみで運営するのではなく、避難してきた人の能力を生かして、協力してくれる仲間を増やしていくことの必要性に気付いた」などの意見もあがり、校内での様々な情報が共有できる機会にもなりました。

障がい者の気持ちを伝え 車いす体験

当事者や体験者から生の声を聴き社会や福祉を学ぶ授業が小学校にはあります。毎年、防災体験とあわせ福祉に関する授業に行っています。今年も9月15日、下外



車いす体験(自走体験)

城田小学校4年生の18名を対象に車いす体験教室を実施しました。この日は、自身が車いすに乗る町社会福祉協議会の西野事務局長が講師役で、自らの障がいから経験してきた不自由さや支援の仕方などを児童と一緒に考え、あいさつや声掛けなどコミュニケーションの大切を伝えました。このあと、2つのグループに分かれ、自走・介助車いす体験を行いました。普段あまり触れる機会のない車いすを乗ってみて操作したり、後ろから押して介助したりして、障がい者や高齢者が使用する不便さやそれを取り除く術を学んでいました。

じぶんのまちを良くするしくみ

赤い羽根共同募金

戦後間もない昭和22年に、市民が主体の民間運動として始まり、当時は戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われました。現在では法律（社会福祉法）に基づき、地域福祉の推進のために活用されています。

10月1日から3月31日は赤い羽根共同募金の運動期間です。社会福祉法に定められた地域福祉の推進を目的に、「自分のまちを良くするしくみ」として毎年実施されています。玉城町内で集められた募金のそのほとんどが玉城町内の福祉活動に使用されます。下記の活動や事業は共同募金を活用し実施しています。また、下記以外にもさまざまな活動や事業に使用されており、どなたでもご参加・利用できる事業や活動もあれば、対象が限定された事業・活動もあります。

詳しくは玉城町社会福祉協議会
☎58-6915 までお気軽
にお問い合わせください。



給食サービス



元気ですたまき委員会



なんでも相談



手話っカフェ



ご寄附いただいた方のご紹介

令和4年7月23日（土）に 有限会社メ
ディファム めぐみ調剤薬局 様よりアルコール
（500ml）20本入りを10箱ご寄附いただきました。
今後、地域福祉活動等に役立てていき
たいと思います。ご寄附いただきありが
うございました。

ご寄附(7月～9月)ありがとうございました

プランニング・ニュー様 7,000円
元気バス募金箱 83,579円

玉城町社会福祉協議会 情報発信中!

ホームページ YouTubeチャンネル フェイスブック



身近な社協相談窓口ご案内

なんでも相談(予約不要)

日時: 毎月10日、30日 13:00～15:00

場所: 玉城町保健福祉会館にて

相談員: 民生児童委員、人権擁護委員、行政相談員